



たくさん先生方に参加していただき、ありがとうございました。特に東部教育事務所管内においては、全ての学校から参加があり、これからの英語教育について活発な意見交流ができ、有意義な一日となりました。12月の授業研究会は、残念ながら中止となりましたが、約40名の参加希望があり、新学習指導要領に沿った授業づくりに対する先生方の関心の高さを感じました。今後も、授業づくり講座を通して、英語教員のネットワークを築き、未来の英語教育を描いていきましょう！

単元構想



第3学年 Unit6「Striving for a Better World」

(NEW HORIZON English Course3 東京書籍)

【領域別目標】 「書くこと」(ウ)

【単元目標】 What is a better world? グローバル化する国際社会を生きていくあなたたち。偉人の生き方を通して自分の考えを伝えるコラムを書く。自分の考えや意見を知ってもらうために、コラムを書き、同級生に伝える。

目的 場面 状況

【Can-Do リスト形式の学習到達目標】「書くこと 第3学年③」

社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて30～45語程度で書くことができる。

言語活動

- 【第1時】アウンサンスーチーさんについての資料(教科書)を読み、自分の考えたことや感じたことを伝える文を書く。
- 【第2時】アウンサンスーチーさんについての資料(教科書)をさらに読み、友達との意見交換を通して自分の考えを直し、文を書く。
- 【第3時】アウンサンスーチーさんの資料をさらに読んで、「a better world」とは何なのか、今までの知識を活用し、自分の考えたことや感じたことを伝える文を書く。
- 【第4時】マザーテレサさんについての文章や資料を読み、自分の考えたことや感じたことを伝える文章を書く。
- 【第5時】前時の writing について、focus point をもとに友達と意見交流して自分の文章を見直し、書き直す。
- 【第6, 7時】ジョン・レノンさんについての文章や資料を読み、自分の考えたことや感じたことを伝える文章を書く。
- 【第8, 9時】マララ・ユスフザイさんに関する情報を聞き、読み手を意識し、自分の考えたことや感じたことを伝えるためにコラムを書く。
- 【第10時】パフォーマンステスト “What is a better world for everyone?” 偉人の生き方を通して、グローバル化する国際社会を生きていく自分の考えを伝えるコラムを書く。

提案授業

グループ協議



視点① 生徒の課題を解決するための単元構想であるか

- 単元を通して、topic を変えながら、偉人についてコラムを書くという言語活動を繰り返しており、表現力や文の構成力等につながるのではないか。
- writing 前の speaking 活動は、友達の見解を参考に自己表現につなげるという点で有効である。
- 内容面に視点を置いた指導があり、板書にも残しているため、生徒に何を伝えるかを考えさせる点で、とてもよい。

視点② 見方・考え方を働かせながら、資質・能力が育成される指導であるか

- 見方・考え方を働かせるためのポイントを、「目の付け所(◎)」として生徒と共有したことがよい。
- 相手意識という点では、a better world という大きな topic を同級生だけに発信するよりも、もっと広い範囲の相手に発信すると見方・考え方がより働くのではないかと。
- 教師・ALT の考えや思いを伝えることをしてみるのもよいのではないかと。(生徒が真似しすぎず、参考にできる程度に)

共に考え



共に学び



共に未来へ前進

英語科三つの視点

- 1 言語活動を通した単元づくり ～指導と評価の一体化～
- 2 教材分析力の向上 ～教科書の有効活用～
- 3 参加者の主体的・対話的で深い学びにつながる講座の充実

単元づくりのプロセス

【書くことウ】 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができる。

偉人の生き方に触れ、世界へと生徒に視野を広げさせ、a better world について考えさせたい。

自分の思いを読み手により分かりやすく伝えるためには、どのような内容や表現を用いて書けばよいのか。

単元づくりのプロセス

＜課題＞
・相手意識を持って伝える力
・コミュニケーションの目的に応じて伝える力
・accuracy

教材分析

教科書の有効活用 Unit6「Striving for a Better World」

題材：世界平和に貢献したノーベル平和賞受賞者の半生の紹介
言語材料：関係代名詞(人やものについて詳しく説明を加えることができる表現)

生徒たちの日常生活と社会、世界との関わりなどについて考えるきっかけを与えられる単元

偉人の生き方に触れ、世界へと視野を広げ、a better world について自分の考えや気持ちを伝える。

見方・考え方の成長

＜単元ゴール＞
What is a better world for everyone? グローバル化する国際社会を生きていくあなたたち。偉人の生き方を通してより良い世界について自分の考えを伝えるコラムを書く。

単元ゴールを描く

自分の思いを読み手により分かりやすく伝えるためには、どのような内容や表現を用いて書けばよいのか。

片岡教諭は、丁寧なプロセスを経て、資質・能力を育成するための単元づくりを行いました。

- ⇒ 学習指導要領をしっかりと読み込み、何を学ぶのか、それをどのように学ぶのか、そして何が出来るようになるかということを確認
- ⇒ 教科書の題材をどのように生徒の学びにつなげるか、言語材料を使うとどのようなことができるのかといったこと等を分析
- ⇒ 生徒の実態として、何ができていないのか、そして何ができていないのかを把握
- ⇒ 本単元で見方・考え方をどこまで成長させたいか、また、どのように成長させたいかを計画

そして、パフォーマンステストの内容やその採点基準を具体的に設定し、単元を通して、生徒に問いを持たせる言語活動の設定やその指導の在り方について模擬授業で提案してくれました。

参加者の声

- 繰り返す言語活動の間に、思考対象としての「問い」をどう組み込んでいくかということが参考になり、授業改善に生かしたいと思いました。
- 目的・場面・状況を具体的に設定することで、見方・考え方がより働き、資質・能力が育成されるということが理解することができました。
- 言語活動を繰り返す中で、単元を貫く問いに近付けるための発問を工夫していかなければならないと感じました。



山田誠志教科調査官より



『コミュニケーションの目的・場面・状況等を明確に！』

清水ヶ丘中は見方・考え方を働かせることを研究しており、文部科学省としてもそこを大事にしている。見方・考え方を働かせたいとなると、読み手は誰で、どういう状況で、何のために伝えるのかという、いわゆる目的・場面・状況の設定は避けて通れない。今回で言えば、「記事を読んで、同級生向けのコラムを書く」よりも、「SNSの記事を読んで(世界中に)自分の意見を投稿する」という風に、より子供に身近なものを扱う方が、動機付けとなる上、英語表現も高度なものを使おうとする。また、「資料のような差別はマララさんの国だけのことなのか、日本には本当にそういった差別はないのか？」などと投げかけてみるのもよい。

『子供から引き出す、子供に気付かせる指導を！』

片岡教諭による模擬授業では、生徒(役)から伝えたい内容やその表現等を引き出させているところがよかった。教師はつい教えたくなるが、その気持ちを抑えて、子供から何とか引き出す、教科書の前のページをめくらせるなどして、気付かせるという指導をぜひしてほしい。

例えば、子供から英語表現について教えてほしいと言われたときに、「こういう表現で言えるよ」と教えるのではなく、「どうやって言ったの？ちょっと教科書を見てごらん。」や”Talk in pairs.”と言う等して、子供の学びを引き出すようにするとよい。

『技能統合の言語活動を！』

新学習指導要領では、現行と比べても、技能統合を色濃く出している。ぜひ、英語教員の方にはトライしてもらいたい。ただし、教科書本文を読んで、“What do you think? Write your opinions.”とやっても、子供は書かないし、書けない。どのようにすれば、子供が読んだことを基に、自分の意見を表現することができるか、授業づくり講座でぜひ学んでほしい。

今回、片岡教諭は、writing の前に、ペアで speaking を行った。ペアで話させても、ガヤガヤただで終わることがよくあるが、片岡教諭は、「質問のさせ方を鍛える」という意図を持って行っている。考えを広め、深めるための speaking にするために、聞き手が鍵を握っている。そういった指導を、中1の4月の段階から行っていく必要がある。